2013年4月22日（月曜日）の中日新聞に救缶鳥プロジェクトが紹介されました。

2013年（平成25年）4月22日（月曜日）

中日新聞

災害備蓄と途上国支援兼用

缶入りパンを購入

名古屋の金城学院中・高

災害時の備蓄用として販売されている缶入りのパンを、途上国支援に役立てる活動「救缶鳥（きゅうかんちょう）プロジェクト」で、参加している名古屋市東区の金城学院中学・高校に千五百缶が届いた。

取り組んでいるのは栃木県那須塩原市のパン製造会社「パン・アキモト」。賞味期限は通常三年だが、残り一年を切ると、同社が購入者側に回収への協力を呼び掛け、回収された缶入りパンを食糧難などで苦しむ途上国に送る仕組み。二〇〇九年から始めた。

金城学院中学・高校は、全国の学校で最も早い一一年度から参加。新入生の家庭の協力で一人二缶ずつ購入し、今月十八日に届いた。

災害時は地域の避難者にも分ける考えで、深谷昌一校長は「このプロジェクトなら食糧を捨てずに役立てられる。貧困や飢餓の問題を考えるきっかけにもなる」と話す。

アキモトによると、プロジェクトへの参加は個人や企業が多く、参加する学校は全国で二十六校。秋元義彦社長は「備蓄した時から社会貢献への一歩が始まる。取り組みをもっと広めたい」と話している。

（多園尚樹）

金城学院中・高の深谷昌一校長㊧にパンを届ける秋元義彦社長＝名古屋市東区で